

どうしちゃ
ったこの？
火々里
さん

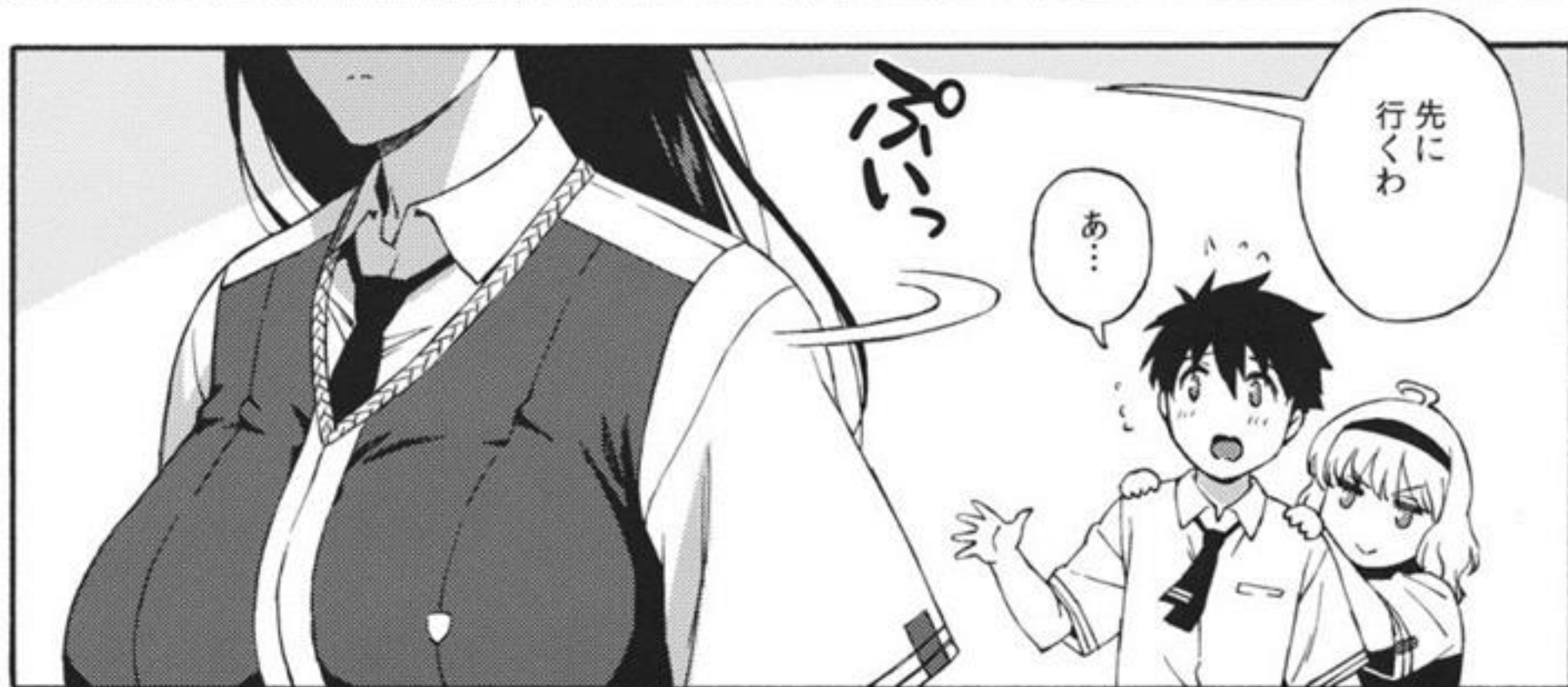


ForAdultOnly
成年向

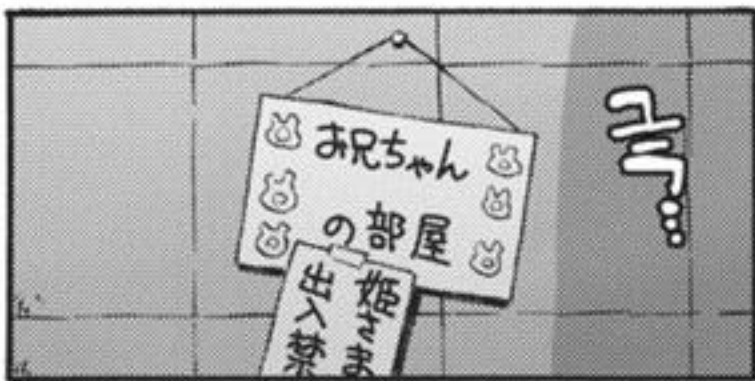








その夜







あれ
火々里さん?
おはよう

もう朝?



火々里さん?

えっと
あの…



えっ、ちよつ
なんで?
僕、小さく
なってる?!



なななななな
あまあまあま?!

な?!





まだ勃起する前の
小さいちんちんを
丸呑みして…

冷やかな表情とは
反対に
舌が激しく動いて、
飴玉みたいにちんちんを
舐り転がしてるっ



もどもど



ふあっ…
皮の中に舌先が
押し入ってきたっ



あわあ

む、
ムケちやう！



皮が…っ
皮がムケちゃ
…あ！！



かっ
火々里さんっ

たかみ

ちんちん

のちんちん

ムケたとこっ

過敏だからっ



がほ

んぐ



たの たの たの

火々里さんが頬を歪めながら
プルプルの唇で亀頭を呑み、
さらさらの舌で裏筋を擦り上げ、
僕のちんちんを
執拗に責め続ける...



おほ おほ



ぶふ

口の中が熱くて
頭の芯まで痺れて...
このままちんちんが
溶けてしまいたいそう...



がほ がほ がほ

だ...だめだっ...
早く...謝らなきゃ...
早く...早く...ッ
謝らなきゃ...いけなのこ
キモチいいいい...
どうしよう...どうしよう...



ごめんなさい

ちゅぽ

火々里さんっ!!

かっかっ

びび

びび



ズキョー♡

ごめんなさい

ちゅぽん

きっと僕が何かしちゃったんだろうと思うからっ

びび

ちゅぽ

どうして怒らせちゃったのか分からないけどっ



それより何を怒ってたのかなーって...

?

ポチ
ポチ



私こそごめんなさい

びび

多華宮くんは何も悪くないわ



私、多華宮くんに悪い事してしまっただわね

ちゅぽ

多華宮君を守るのが私の使命なのに

えっ、いや酷い事なんて

ちゅぽ



これで

許してもらえ
かしら



ちんちんが全部
包みこまれる…
これが火々里さんの体温…
おっぱいってこんなに
温かいんだ…



許すも何もっ

火々里さんは
何も悪くないよっ

でも
私の気が
済まないわ



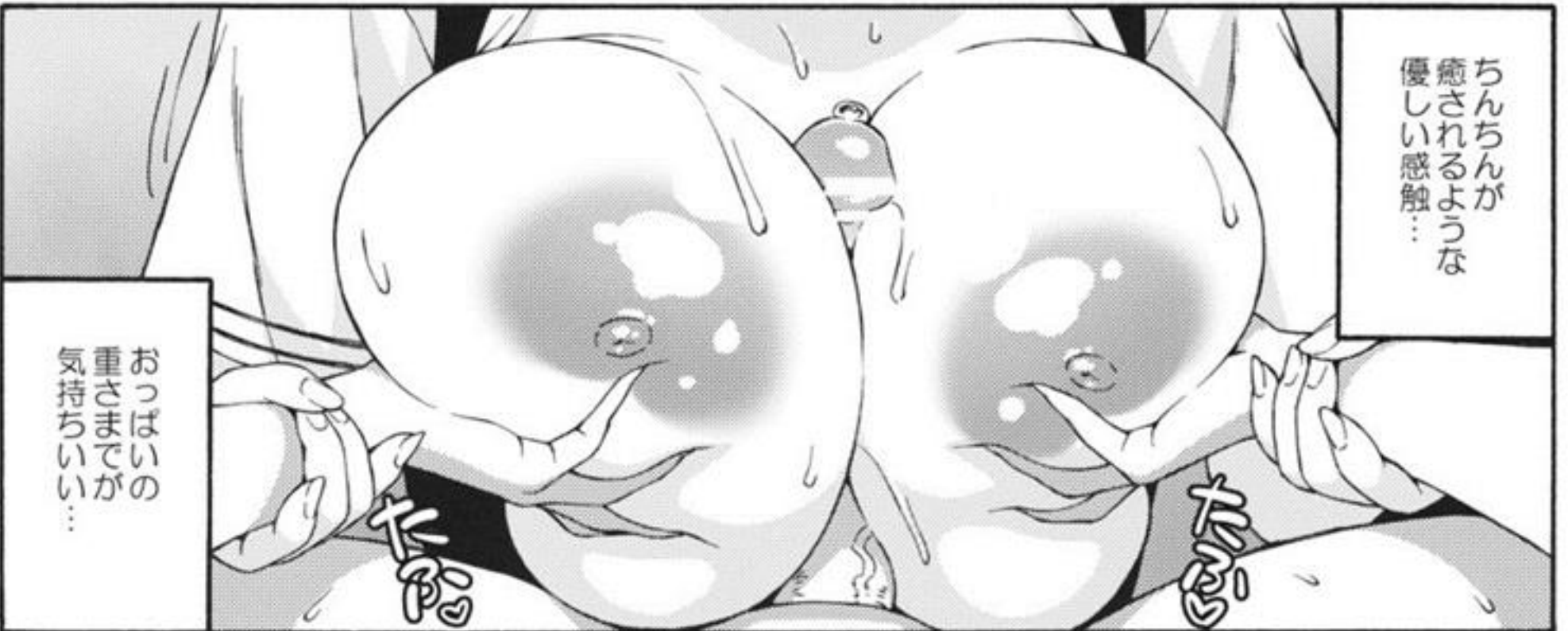
自分で
私のおっぱい
つかんでみて

うん

キレ



指が刺さりそうな
ほど柔らかい、
ふわふわ…



ちんちんが
癒されるような
優しい感触…

おっぱいの
重さまでが
気持ちいい…



もっと乱暴に
動かしていいのよ
多華宮くん

え、でも

遠慮しないで
思いつきり
やってみて



チンポを奥に
押し込んで、
いいわ
その調子よ

そう、
おっぱいを
力強く掴んで
揉みこむの



おっぱい♡♡♡

気持ちいい♡♡

火々里さんのおっぱい♡♡

火々里さんのおっぱい♡

ああああっ
火々里さん♡

止まらないっ



ギョ

ギョ



ゴゴゴ♡

ゴゴゴ♡

ゴゴゴ♡



いいの、
いっぱい出して
くれて嬉しいわ

ぬばあ♡

うわっ
火々里さんのおっぱい
汚しちゃって
ごめんなさいっ



だっだっ

ガクガク



大変だわ
多華宮君

多華宮君の意思に
反して多華宮君を
傷つけてしまった
以上、

このままでは
私はあなたを守る
騎士の資格を
失ってしまうわ

※ウソ

いや、あの
傷ついては
ないけど...

ええっ?!

だから
再契約の為の
誓いの儀を

結ばなければ
ならないの

※ウソ

ここに

かかか
火々里さん?!

可及的
速やかに

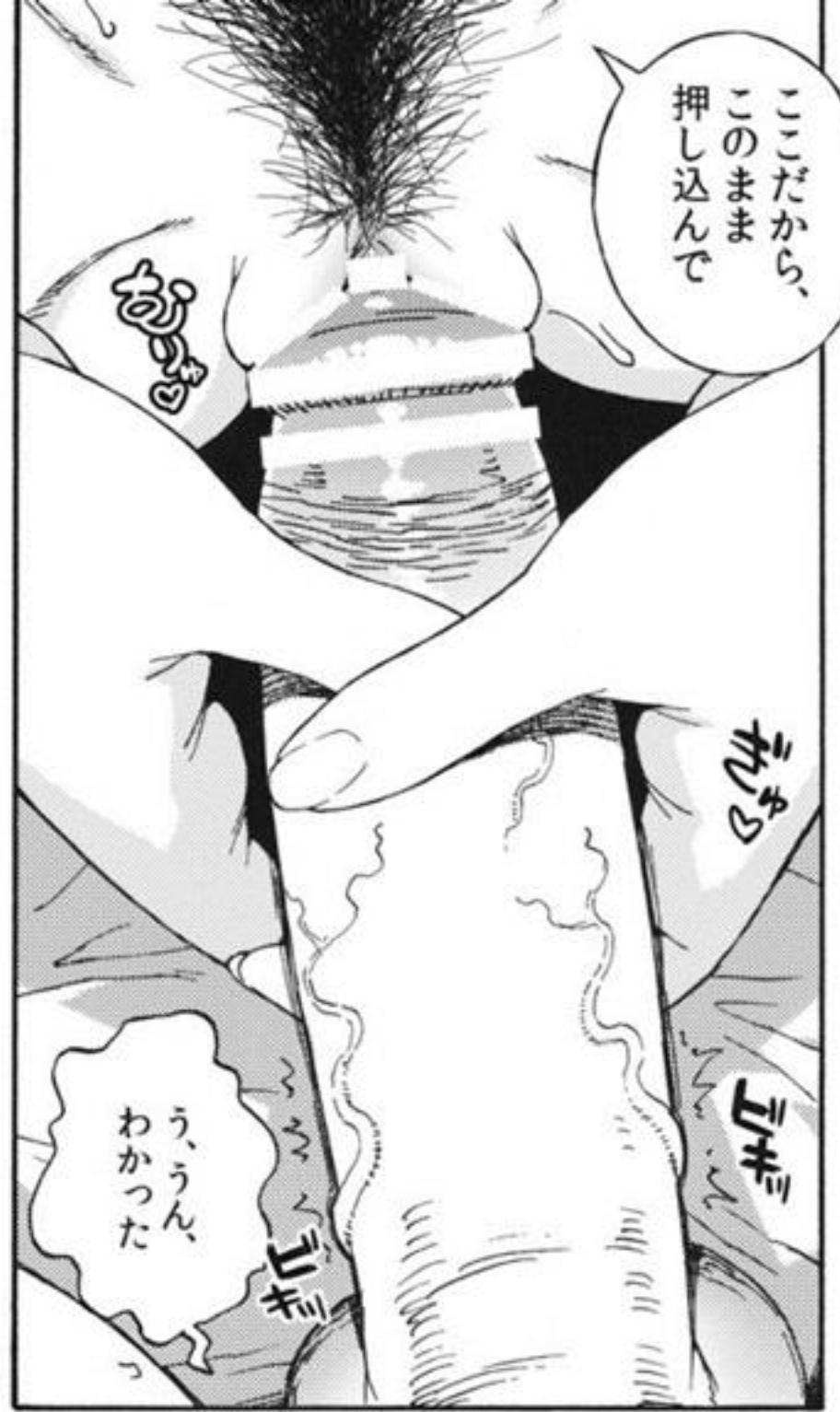
だだだだ
だめだよ、
火々里さんっ
そんなっ



多華宮君、
時間がないの

あつ

ここだから、
このまま
押し込んで



大丈夫？
火々里さん
痛くないの？

大丈夫、もっと
入るから根元まで
全部入れて



う、うん、
わかった



全部入っちゃった
あああああ

かつ
火々里さんッ

オオオオ
オオオオ

火々里さんの
全身が全力疾走
したように
熱く汗ばんでる

僕もサウナにいる
みたいに汗が
噴き出してくる



魔力が上手く
コントロール
出来ないの

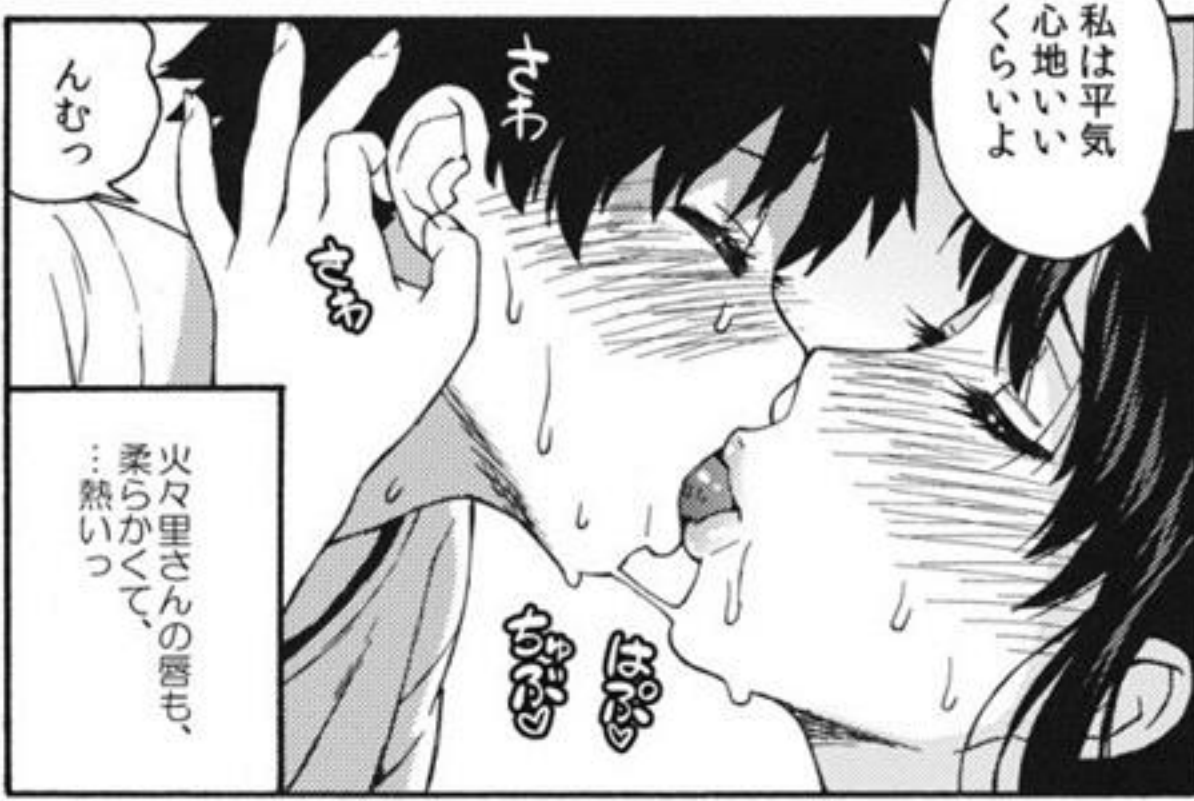
ううん…
火々里さんこそ
熱くないの？



ごめんなさい
多華宮くん

私は平気
心地いい
くらいよ

熱いでしょう？



火々里さんの唇も、
柔らかくて、
…熱いっ

たっぴん たっぴん
たっぴん たっぴん

たっぴん たっぴん
たっぴん たっぴん

膣が燃えているように
熱くて、
別の生き物みたいに
僕のちんちんを絞り上げ
吸い込もうと動いている

それに呼吸するまじごと
僕もひたすら、
熱い肉の中に
ちんちんを突き刺し、
叩きつける



火々里さんの膣肉と
僕のちんちんが
熔けて融合してしまう
ような感覚に爆発しそうに
なる…もうッ
膣に…出したいッ

多華宮くん、
気持ちいい？

うんっ

気持ち
いいっ

気持ちいいよ
火々里さんっ

良かった、
私もよ



火々里さんッ

火々里さんッ

ジュンジュン

ジュンジュン

いいわよ
膣に出してっ
ッ

なか
膣に射精
してッ

ジュンジュン

ジュンジュン



ジュンジュン
ジュンジュン
ジュンジュン

ジュン

ジュン
ジュン
ジュン
ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン





何でこんな
ところで
寝てるのよ!!



失礼します!
姫様おはよう
ございます!!

お兄ちゃんツ!!



霞ちゃん
降ろしてよ!!



うわっ
って何?!

ぶらん



なんか
遅かしいな
ママさん
おかわり
下さい
はい
はい

私のお兄ちゃんが〇〇なおけがない。



あとがき

どうもです、甚六です。
お手にとって頂きありがとうございます。

2冊目のWCW本です。
アニメ化と聞いて気持ちが高まるあまり
また描いてしまいました。

火々里さんと多華宮君の距離感がたまらんです。
女の子の方が大きい身長差カップルも大好物。
巨乳なのに谷間も下乳も横乳も見せない
ガードの固さも想像力を刺激します。
妄想のエンジンも回転上がるというものです。

1冊目とは繋がりを持たせてませんので
前回をお読みでなくても楽しんで頂けるように
なってると思います。
が、
興味を持たれましたら
前作「火々里さんにおまかせ」も
よろしくお願いします。

甚六

どうしちゃたの？火々里さん

■奥付■

発行 666PROTECT
発行日 2013年8月11日

HP <http://www16.ocn.ne.jp/~jingrock/>
mail jin6@beach.ocn.ne.jp
印刷 Comflex様

この本は成年向けです。18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます



666PROTECT

遅刻おぼや
おぼや
おぼや
おぼや

